

格助詞「に」と「へ」の使い分けの男女差

—— アンケート調査に基づく考察 ——

郭 潔

1. はじめに

郭・林 (2012) は、日本語母語話者が格助詞「に」と「へ」を用いる際に、具体的な場所の関係だけでなく、人間関係の心理的距離の遠近によっても使い分けられているということ明らかにしている。さらに、「に」と「へ」を使用する際に、主として「に」が密着性を表現し、「へ」が方向性を表現することも確かめられた。それらの点に関して、必ずしも男女の視点が一致しているとは限らない。特に、待遇的な表現における「に」と「へ」の使い分けが注目される。広い範囲で使用できる格助詞「に」と敬意の度合いが高い場合に用いられる「へ」に関して、待遇表現や敬意の度合いにおける男女差が出やすい日本語では、格助詞「に」と「へ」の選択に関する男女の性差も存在しているのではないかと考えられる。

2. 研究の目的と意義

郭・林 (2012) は、格助詞「に」と「へ」に関して、主として「に」が密着性を表現し、「へ」が方向性を表現し、幅広い人間関係で使える「に」と敬意の度合いが高い場面で用いられる「へ」という役割分担があるという仮説の検証を試みた。本稿では、社会言語学の観点から、言語形式に対して丁寧度を比較的に高く意識する女性の方が待遇性の「へ」を選択する傾向が高く、それに対して丁寧度をさほど意識しない男性が「に」を選択する傾向があるという点を第一の仮説としたい。また、女性の方が密着性の「に」を重視し、男性が方向性の「へ」を重視する傾向が高いという点を第二の仮説として設定したい。

3. 先行研究

3-1. 郭・林 (2012) による格助詞「に」と「へ」の使い分けの実際

郭・林 (2012) は、「に」と「へ」の使い分けの実際を以下の四つに区分して示している。

3-1-1. 格助詞「に」が密着性を表現するという第1の仮説を支持する例

表1. 「へ」より「に」が優位な文

番号	設問文	へ(%)	に(%)	差異
1	絵を壁(へ・に)かける。	3.6	96.4	92.8
2	ふりかけをご飯(へ・に)かける。	4.1	95.9	91.8
3	友達(へ・に)かける言葉が見つからない。	18.3	81.7	63.4

表1は主として「に」が密着性を表現するという第1の仮説を検証した例である。つまり、「絵」と「壁」の密着性、「ふりかけ」と「ご飯」の密着性が、格助詞「に」によって表現され

(2)

ている。具体的な事物だけでなく、「友達」に対して「言葉」のような抽象物においても「かける」という動詞とともに密着性の「に」が用いられている。「に」と「かける」が一語化して用いられているとも言える例である。

3-1-2. 「へ」が心理的距離の遠い場合や目上などの人間関係の場合に用いられる例

郭・林 (2012) は、格助詞「へ」が心理的距離の遠い場合や目上などの人間関係の場合などに用いられる傾向があることを第2の仮説とした。「に」に対して「へ」の方は目上の人に対して丁寧で改まった公的な場面に用いられるとする待遇的な使い分けをしていることが次の例で確かめられた。本稿では、待遇性の「へ」としておきたい。

表2. 「に」より「へ」が優位な文

番号	設問文	へ(%)	に(%)	差異
4	ご遺族の方(へ・に)かける言葉が見つからない。	67.9	32.1	35.8
8	社員から部長(へ・に)提出する書類が山のようにある。	55.8	44.2	11.6
6	生徒が先生(へ・に)花束を差し上げた。	55.3	44.7	10.6

上記の「へ」が優位な文は、「へ」が方向性を表現する機能分担の仮説1も同時に検証しているが、「に」も3割から4割の比率で方向性を表現する場合があることを示している。(注1)

3-1-3. 授受表現における格助詞「へ」より「に」が優位な文

表3. 授受表現における「に」が優位な文

番号	設問文	へ(%)	に(%)	差異
5	佐藤さんは田中さん(へ・に)プレゼントをあげた。	10.0	90.0	80.0
9	彼は彼女(へ・に)渡すメッセージカードのデザインを考案中だ。	19.9	80.1	60.2
7	親から子(へ・に)あげるお小遣いの限度額はいくらなのだろうか。	40.0	60.0	20.0

上記の3文は、授受表現であり、「あげる」「渡す」という動詞とともに相手(着点)を表す「に」が用いられた例である。「に」が心理的距離の近い同等あるいは対等に当たる人間関係の場合に用いられるとする仮説2の検証例である。「親から子へ」の起点「から」と終点「へ」の方向性が示された文の差異が20ポイントと他の2文と比べて小さかった。

3-1-4. 格助詞「に」と動詞「入る」の結合価が高いことを示す例

表4. 「へ」より「に」が優位な文

番号	設問文	へ(%)	に(%)	差異
13	老後の楽しみとして「日本秘湯(へ・に)入る会」に入会した。	24.0	76.0	52.0
11	見学者として賃貸住宅(へ・に)入る時、注意点がいくつかある。	26.2	73.8	47.6

10	今年の春からパリの大学院（へ・に）入ることになりました。	28.4	71.6	43.2
12	引っ越して賃貸住宅（へ・に）入る時、注意点がいくつかある。	29.5	70.5	41.0

上記の4文は、格助詞「に」と動詞「入る」の結合価が高いことを示す例である。

郭・林（2012）によると、動詞の特徴にもよるが、所属や入室・入居、入浴など密着性が高い場合の例であり、「に」が密着性を表現するという仮説1を検証する例とも言える。同じ密着性でも所属と入浴、入室・入居では、密着性の意識・イメージが異なると思われる。調査結果は、ほぼ同率の7割台となった。

調査から判明したのは、日本語母語話者が、動作の相手が「目上」なのか「同等」なのか、文の敬意の度合いによって格助詞を使い分けている可能性があるということである。

物理的にも心理的にも「に」に密着性があるのに対して、「へ」は方向性を示し、物理的にも心理的にも動作主と対象との間の距離感があり、その分だけ改まり感も生ずると考えられる。

3-2. 日本語の男女差に関する先行研究

日本語の男女差について、先行研究ではどのように捉えられてきたかを概観しておきたい。

日本語の男女差、特に女性の言葉遣いの歴史的変遷については、遠藤（1997）が詳しく述べている。遠藤（1997）は、古代日本語から女性の言葉を社会的人為的条件、即ち「劣る性とされた女性は、女房詞などを手本として『女らしい』美しい、上品なことをばを強制されてゆく」と指摘している。

また、現代では言語的特徴として、女性のみがもつ独特な語彙と表現、「お〜」のつく語彙、自分を示す代名詞、文末の間投助詞、言いさしに微妙な男女差があるとしている。

寿岳（1979）は、「女性の言葉は、女らしさを表すには敬語が強く志向され、上下関係確認の手段としてのあいさつなども、女の方がする側にまわることが多い」としている。

井出（1983）によれば女性には丁寧な話し方が求められ、それにはフォーマリティの高い言葉を使う。言語上の特徴としては、今まで既に多く研究されていた、です／ます体、敬語、接頭辞、文末表現にする終助詞などをあげている。さらに、対人場面など、場面に依存して言葉の男女差が生じるという指摘がある。

井出（1997）は、女性が男性より丁寧な言語表現を使用する理由について以下のように述べている。

「地位の差としての性差によるものではなく、役割の差によるということであった。つまり、主婦という役割を担う多くの女性は仕事のための効率より、付き合いをうまく行うためのやりとりを重んじることが多いので、より丁寧な言語表現を使用している。一方、男性は通常仕事場の人間関係のやりとりが多いので、効率よい話し方が有効な場に身を置くことが多い。そこには、社交の場におけるような高度の丁寧さを持つ言語表現は使われない」。

このように、女性が丁寧な言葉をつかうのは、女性の地位が低いからというネガティブに捉えるものから、ポジティブに捉えるものまでである。

(4)

女性と男性の言葉遣いの関係について、中村（2010）は、「男性は、基本の日本語を、相手や場面、そのときの心理に応じて丁寧度が高いものから低いものまで自由に選択できるのでに対し、女性は、丁寧度の低い形式の使用が禁止される形で、言語使用の選択の幅が制限されているのである」と述べている。

中村（2010）は、「女性の言葉遣いは男性とそれぞれ異なる体系ではなく、男性の言葉遣いから命令や断定の助動詞、さらに丁寧度が低い語彙などを取り除いたものの総体である」としている。中村（2012）は、「現代日本語においても、女性は丁寧であるべきであるというジェンダー・イデオロギーが言語使用の規範として明示的に示されている」と指摘している。

本稿では、上記のような先行研究が取り扱っていない格助詞「に」と「へ」に関する男女差を検討していきたい。

4. 研究方法・分析方法

4-1. アンケート調査

本稿は、郭・林（2012）に使用したアンケートの結果を男女差に注目して再検討する。

本発表では男女差が10ポイント以上を差異がある例として、10ポイント未満は差異がないものとして分析する。（別添資料1参照）アンケートの設問は、村上（2011）を参考にして格助詞「に」と「へ」に関する項目に絞って用いた。

4-2. アンケートの概要

実施期間：2011年4月～同年8月 有効回答者数：638 無効回答者数：6

表5. 性別の内訳（単位：名）

女性	男性	合計
400	238	638

表6. 職業の内訳（単位：名）

学生	社会人	その他	合計
346	240	52	638

表7. 年齢別の内訳（単位：名）

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
191	166	58	93	67	39	20	4	638

表8. 出身地の内訳（単位：名）

山口	岡山	長崎	福岡	広島	大分	鳥根
248	77	67	50	50	35	27
佐賀	徳島	大阪	宮崎	愛媛	熊本	兵庫
22	10	7	7	5	4	4
高知	鹿児島	長野	東京	香川	茨城	奈良
3	3	2	2	2	2	2
北海道	神奈川	埼玉	京都	鳥取	岐阜	富山
2	2	1	1	1	1	1

以上合計 638

(5)

4-3. アンケートの男女差の集計と分析

設問1：絵を壁（へ・に）かける。

表9. 設問1の集計（男性：238, 女性：400）

選択項目	性別	選択人数	選択率 (%)
へ	女性	11	2.8
	男性	9	3.8
差異		2	1.1
に	女性	389	97.3
	男性	229	96.2
差異		160	1.1

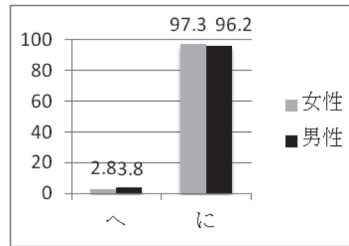


図1. 設問1の選択率

設問1では、女性回答者の2.8%が「へ」を選択し、97.3%が「に」を選択した。それに対し、男性回答者の3.8%が「へ」を選択し、96.2%が「に」を選択した。「へ」と「に」の男女差は1.1ポイントで、差異は認められない。

設問2：ふりかけをご飯（へ・に）かける。

表10. 設問2の集計（男性：238, 女性：400）

選択項目	性別	選択人数	選択率 (%)
へ	女性	11	2.8
	男性	18	7.6
差異		7	4.8
に	女性	389	97.2
	男性	220	92.4
差異		169	4.8

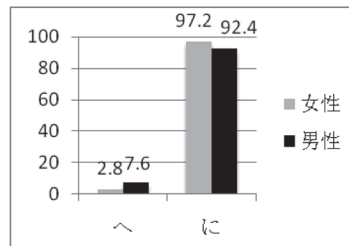


図2. 設問2の選択率

設問2では、女性回答者の2.8%が「へ」を選択し、97.2%が「に」を選択した。それに対し、男性回答者の7.6%が「へ」を選択し、92.4%が「に」を選択した。「へ」と「に」に関する男女差は4.8ポイントで、差異は認められない。

回答者から、「かなりの頻度で『に』を使用しているなと思いました」（男・20代）、「恐らく『に』の方が日常的な行動によく使われるのだと思う」（女・10代）などの意見が寄せられている。設問1と設問2との直接なかかわりが見られないが、設問1の「絵を壁にかける」と設問2の「ふりかけをご飯にかける」のような日常生活でよく見られる対物関係の場面では、男女差がなく「に」を多用している傾向が見られる。

(6)

設問3：友達（へ・に）かける言葉が見つからない。

表11. 設問3の集計（男性：238, 女性：400）

選択項目	性別	選択人数	選択率 (%)
へ	女性	76	19.0
	男性	41	17.2
差異		35	1.8
に	女性	324	81.0
	男性	197	82.8
差異		127	1.8

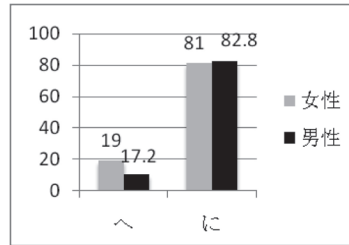


図3. 設問3の選択率

設問3では、女性回答者の19.0%が「へ」を選択し、81.0%が「に」を選択した。それに対し、男性回答者の17.2%が「へ」を選択し、82.8%が「に」を選択した。「へ」と「に」の男女差は1.8ポイントで、差異は認められない。

設問4：ご遺族の方（へ・に）かける言葉が見つからない。

設問4では、女性回答者の72.0%が「へ」を選択し、28.0%が「に」を選択した。それに対し、男性回答者の60.1%が「へ」を選択し、39.9%が「に」を選択した。「へ」と「に」に関する男女差は11.9ポイントで、差異が認められる。

設問4は設問3より敬意の度合いが高く、改まった場面や敬意を配慮される場面では女性が男性より丁寧な言葉使いを要求されるという点から見ると、格助詞「に」「へ」の選択に関する面でも日本語の性差が影響しているということが分かる。

表12. 設問4の集計（男性：238, 女性：400）

選択項目	性別	選択人数	選択率 (%)
へ	女性	288	72.0
	男性	143	60.1
差異		145	11.9
に	女性	112	28.0
	男性	95	39.9
差異		17	11.9

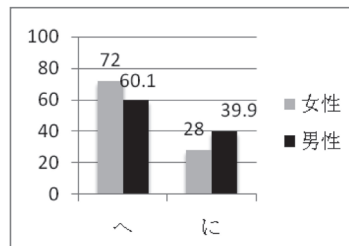


図4. 設問4の選択率

回答者の自由記述では、「『へ』は相手との距離を示すため、目上の人との距離を表し、丁寧な感じを出しているように思える」（女性・20代）、「『へ』の方がどこか丁寧なように感じました」（女性・10代）などの意見が複数得られた。男性の回答者からも「フォーマルな場では『へ』を使う気がする」という意見があったが、全体として女性が敬意の度合いが高い場では「へ」を使うという傾向が見られる。

(7)

設問5：佐藤さんは田中さん（へ・に）プレゼントをあげた。

表13. 設問5の集計（男性：238, 女性：400）

選択項目	性別	選択人数	選択率 (%)
へ	女性	22	5.5
	男性	42	17.6
差異		20	12.1
に	女性	378	94.5
	男性	196	82.4
差異		182	12.1

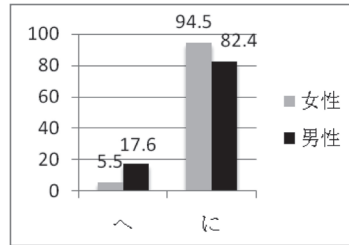


図5. 設問5の選択率

設問5では、女性回答者の5.5%が「へ」を選択し、94.5%が「に」を選択した。それに対し、男性回答者の17.6%が「へ」を選択し、82.4%が「に」を選択した。「へ」と「に」に関する男女差は12.1ポイントで、差異が認められる。

設問6：生徒が校長先生（へ・に）花束を差し上げた。

表14. 設問6の集計（男性：238, 女性：400）

選択項目	性別	選択人数	選択率 (%)
へ	女性	255	63.8
	男性	98	41.2
差異		157	22.5
に	女性	145	36.3
	男性	140	58.8
差異		5	22.5

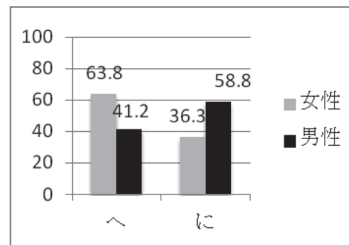


図6. 設問6の選択率

設問6では、女性回答者の63.8%が「へ」を選択し、36.3%が「に」を選択した。それに対し、男性回答者の41.2%が「へ」を選択し、58.8%が「に」を選択した。「へ」と「に」に関する男女差は22.5ポイントで、差異が認められる。

設問5と設問6は対人場面であり、設問6の方が「差し上げる」という動詞によって敬意の度合いが比較的高いと言える。そのような上下関係がはっきりしている場面では「へ」と「に」に関する男女差が出やすいということが分かった。

(8)

設問7：親から子（へ・に）あげるお小遣いの限度額はいくらなのだろうか。

表15. 設問7の集計（男性：238, 女性：400）

選択項目	性別	選択人数	選択率 (%)
へ	女性	167	41.7
	男性	88	37.0
差異		79	4.7
に	女性	233	58.3
	男性	150	63.0
差異		83	4.7

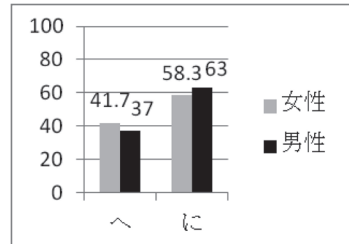


図7. 設問7の選択率

設問7では、女性回答者の41.7%が「へ」を選択し、58.3%が「に」を選択した。それに対し、男性回答者の37.0%が「へ」を選択し、63.0%が「に」を選択した。差異は認められない。

設問8：社員から部長（へ・に）提出する書類が山のようにある。

表16. 設問8の集計（男性：238, 女性：400）

選択項目	性別	選択人数	選択率 (%)
へ	女性	228	57.0
	男性	128	53.8
差異		100	3.2
に	女性	172	43.0
	男性	110	46.2
差異		62	3.2

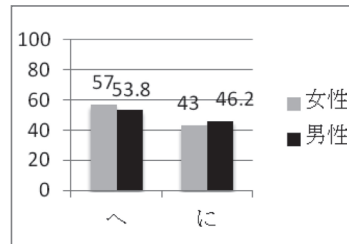


図8. 設問8の選択率

設問8では、女性回答者の57.0%が「へ」を選択し、43.0%が「に」を選択した。それに対し、男性回答者の53.8%が「へ」を選択し、46.2%が「に」を選択した。「へ」と「に」の男女差は3.2ポイントで、差異は認められない。

「社員」と「部長」のような上下関係がはっきりしている場面では、男女差が出やすいと予想したが、結果として3.2ポイント差で、差異は認められなかった。確かに設問8では「社員」と「部長」の上下関係が明白に示されているが、文の構成として「社員から部長（へ・に）提出する」の部分が直接的な対人関係ではなく、「書類」の修飾成分となっている。さらに、「AからBへ」という文型を用いることが多いことが、設問8において「へ」と「に」に関する男女差が出現しなかった理由だと考えられる。

(9)

設問9：彼は彼女（へ・に）渡すメッセージカードのデザインを考案中だ。

表17. 設問9の集計（男性：238, 女性：400）

選択項目	性別	選択人数	選択率 (%)
へ	女性	78	19.5
	男性	49	20.6
差異		29	1.1
に	女性	322	80.5
	男性	189	79.4
差異		133	1.1

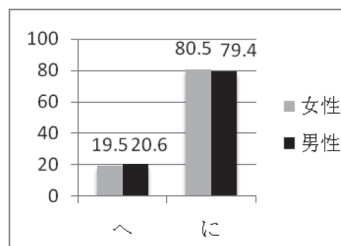


図9. 設問9の選択率

設問9では、女性回答者の19.5%が「へ」を選択し、80.5%が「に」を選択した。それに対し、男性回答者の20.6%が「へ」を選択し、79.4%が「に」を選択した。「へ」と「に」に関する男女差は1.1ポイントで、「へ」と「に」に関する差異は認められない。

設問10：今年の春からパリの大学院（へ・に）入ることになりました。

表18. 設問10の集計（男性：238, 女性：400）

選択項目	性別	選択人数	選択率 (%)
へ	女性	122	30.5
	男性	57	23.9
差異		65	6.6
に	女性	278	69.5
	男性	181	76.1
差異		97	6.6

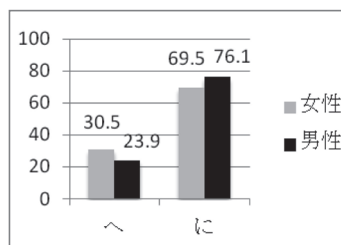


図10. 設問10の選択率

設問10では、女性回答者の30.5%が「へ」を選択し、69.5%が「に」を選択した。それに対し、男性回答者の23.9%が「へ」を選択し、76.1%が「に」を選択した。「へ」と「に」に関する男女差は6.6ポイントで、「へ」と「に」に関する差異は認められない。

(10)

設問11：見学者として賃貸住宅（へ・に）入る時、注意点がいくつかある。

表19. 設問11の集計（男性：238，女性：400）

選択項目	性別	選択人数	選択率（%）
へ	女性	69	17.3
	男性	98	41.2
差異		29	24.0
に	女性	331	82.8
	男性	140	58.8
差異		191	24.0

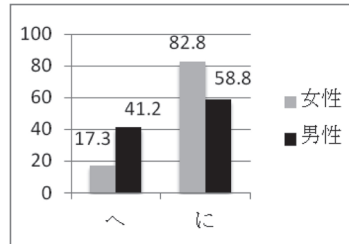


図11. 設問11の選択率

設問11では、女性回答者の17.3%が「へ」を選択し、82.8%が「に」を選択した。それに対し、男性回答者の41.2%が「へ」を選択し、58.8%が「に」を選択した。「へ」と「に」に関する男女差は24.0ポイントで、「へ」と「に」に関する選択率に差異が認められる。

設問12：引越して賃貸住宅（へ・に）入る時、注意点がいくつかある。

表20. 設問12の集計（男性：238，女性：400）

選択項目	性別	選択人数	選択率（%）
へ	女性	126	31.5
	男性	66	27.7
差異		60	3.8
に	女性	274	68.5
	男性	172	72.3
差異		102	3.8

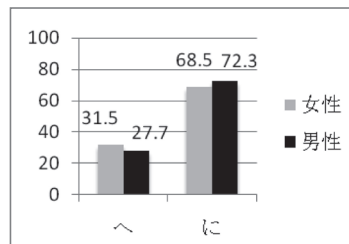


図12. 設問12の選択率

設問12では、女性回答者の31.5%が「へ」を選択し、68.5%が「に」を選択した。それに対し、男性回答者の27.7%が「へ」を選択し、72.3%が「に」を選択した。「へ」と「に」に関する男女差は3.8ポイントで、「へ」と「に」に関する選択率に差異は認められない。

回答者から、「『見学』の場合は自分と建物が所属関係ではなく、距離感を感じ、また見学の担当者に対する責任意識も生じている。『引越し』の場合は連帯関係が発生することに伴って、自分とは親しい感じをする」（男性・30代）という意見が寄せられている。

設問11の「見学」の場合と設問12の「引越し」の場合では「賃貸住宅」に対する心理的な距離感の差によって、「に」と「へ」を選択する際に男女の差異が生じることが考えられる。

(11)

設問13：老後の楽しみとして「日本秘湯（へ・に）入る会」に入会した。

表21. 設問13の集計（男性：238, 女性：400）

選択項目	性別	選択人数	選択率（%）
へ	女性	99	24.7
	男性	54	22.7
差異		45	2.0
に	女性	301	75.3
	男性	184	77.3
差異		117	2.0

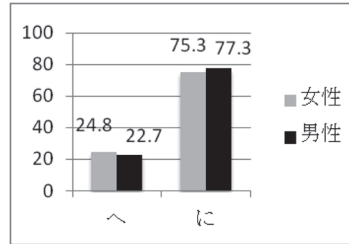


図13. 設問13の選択率

設問13では、女性回答者の24.7%が「へ」を選択し、75.3%が「に」を選択した。それに対し、男性回答者の22.7%が「へ」を選択し、77.3%が「に」を選択した。「へ」と「に」に関する男女差は2.0ポイントで、「へ」と「に」に関する選択率に差異は認められない。

5. まとめ

以上格助詞「に」「へ」における男女差を設問ごとに検討してきた。ここで男女差が認められた文と男女差が認められなかった文をまとめておきたい。

5-1. 男女差が認められた例

男女差が認められた例を次の表22に示す。

表22. 男女差が認められた例

番号	設問文	差異
11	見学者として賃貸住宅（へ・に）入る時、注意点がいくつかある。	24.0
6	生徒が校長先生（へ・に）花束を差し上げた。	22.5
5	佐藤さんは田中さん（へ・に）プレゼントをあげた。	12.1
4	ご遺族の方（へ・に）かける言葉が見つからない。	11.9

表22に示した4例の中で、設問11以外の3問は全て対人場面の設定であり、とくに設問6の上下関係と設問4の親疎関係がはっきりとしていて、仮説通りに男女差が出現した。分析結果によると、上下関係や親疎関係がはっきりしている場面では、女性の方が敬意の度合いが高い待遇性の「へ」を選択する傾向が見られ、それは女性の方が改まった場面により丁寧な言葉遣いをするという視点と一致している。

設問5のように、「佐藤さん」と「田中さん」における上下関係がはっきりしていない場面では、男女とも格助詞「に」を選択した人数が多かったが、男性のほうは女性より「へ」の選択率が高く、女性は男性より「に」の選択率が高い。このような「AはBに～をあげる」という文型では女性の方が動作の帰着点つまり密着性の「に」を重視し、男性は動作の方向性を

重視しているとの第二の仮説と一致していると言える。

設問11では、男女全体が「に」を選択する傾向が強い中で、設問5と同じように、男性は動作の方向性を重視し、女性は「に」の密着性を重視していると考えられる。

5-2. 男女差が認められなかった例

次の表23に示した9例の中で、設問1、2、3は「～かける」という動作の密着性を表す場面であり、男女差は出現しなかった。

設問7、8、9は対人関係を含む場面設定であり、特に設問7と設問8における親疎関係と上下関係がはっきりしているため、男女差が出現しやすいという仮説1に含まれる文であるが、結果として差異は認められなかった。文の構成から見ると、それらの設問文における対人関係は文中で修飾成分となり、直接的に人間関係を示す場面ではないため、男女差は出現しなかったと考えられる。

表23. 男女差が認められなかった例

番号	設問文	差異
10	今年の春からバリの大学院（へ・に）入ることになりました。	6.6
2	ふりかけをご飯（へ・に）かける。	4.8
7	親から子（へ・に）あげるお小遣いの限度額はいくらなのだろうか。	4.7
12	引越して賃貸住宅（へ・に）入る時、注意点がいくつかある。	3.8
8	社員から部長（へ・に）提出する書類が山のようにある。	3.2
13	老後の楽しみとして「日本秘湯（へ・に）入る会」に入会した。	2.0
3	友達（へ・に）かける言葉が見つからない。	1.8
1	絵を壁（へ・に）かける。	1.1
9	彼は彼女（へ・に）渡すメッセージカードのデザインを考案中だ。	1.1

設問10、12、13の場合では、男女双方が「に」と「入る」の結合価が高いと判断し、使用率にほとんど差異がないという結果が得られた。以上の結果から、格助詞「に」の密着性に関する場面では男女差が出現しにくいということが分かった。

6. 今後の課題

本稿では、格助詞「に」と「へ」の男女差について仮説を設定し検証を試みた。直接的な対人場面、特に上下関係や親疎関係などが比較的是っきりしている場面では、男女差が出やすいことがほぼ認められた。また、格助詞「に」の密着性に関する場面では男女差が出にくい傾向があるが、女性が密着性の「に」を重視し、男性が方向性の「へ」を重視する傾向も見られた。

また、設問11と設問12における「見学者としての入室」と「引越しの場合の入居」という場面の違いによって約20ポイントの差が出た理由に関しては解明されていない。別添資料1に示されたアンケート用紙に設問11と設問12が並んで示されたために、設問11で選んだものとは違うものを設問12では選ぶという意識が回答者に働いたのかもしれない。ただし、もしそうだと

とすると設問12が想定外の回答になるはずだが、本報告では設問11の方が想定外の差異が出現している。

また、本報告では紙幅の都合上、設問14と設問15の集計結果と分析は省略した。さらに年齢差や地域差の検討にまでは及ばなかったが、今後の課題として別途検討したい。

(注1) 郭潔・林伸一 (2012) 「格助詞『に』と『へ』の使い分けについて—アンケート調査の分析を基に一」『山口国文』第35号の73ページ、表19の中では「生徒が先生(へ・に)花束を差し出した」となっていたが、「花束を差し上げた」の誤記である。(別添資料1のアンケート項目の6番目を参照していただきたい。)

【参考文献】

- 井出祥子 (1983) 「女性の話しことば」水谷修編『話しことばの表現』筑摩書房
- 井出祥子 (1997) 『女性語の世界』明治書院
- 遠藤織枝 (1997) 『女のことばの文化史』学陽書房
- 小川早百合 (2006) 「話ことばの終助詞の男女差の実際と意識—日本語教育での活用へ向けて—」『日本語とジェンダー』ひつじ書房
- 郭潔・林伸一 (2012) 「格助詞『に』と『へ』の使い分けについて—アンケート調査の分析を基に一」山口大学人文学部国語学会発行『山口国文』第35号、pp.64-78
- 寿岳章子 (1979) 『日本語と女』岩波書店
- 中村桃子 (2010) 『ジェンダーで学ぶ言語学』世界思想社
- 村上智美 (2011) 「格助詞の使い分け—『に』『へ』『から』『と』について—」現代日本語文化研究会発行『現代日本語文化論』第3号、pp.122-145
- 安田芳子・小川早百合・品川なぎさ (1999) 「現代日本語における男女差の現れと日本語教育—意識・実態調査の分析—」『日本語教育研究会論文集7』

(カク・ケツ)

別添資料 1

格助詞に関するアンケート調査

1. あなたがよく使用する格助詞を一つ選んで○をつけてください。

- 1) 絵を壁 (へ・に) かける。
- 2) ふりかけをご飯 (へ・に) かける。
- 3) 友達 (へ・に) かける言葉が見つからない。
- 4) ご遺族の方 (へ・に) かける言葉が見つからない。
- 5) 佐藤さんは田中さん (へ・に) プレゼントをあげた。
- 6) 生徒が校長先生 (へ・に) 花束を差し上げた。
- 7) 親から子 (へ・に) あげるお小遣いの限度額はいくらなのだろうか。
- 8) 社員から部長 (へ・に) 提出する書類が山のようにある。
- 9) 彼は彼女 (へ・に) 渡すメッセージカードのデザインを考案中だ。
- 10) 今年の春からパリの大学院 (へ・に) 入ることになりました。
- 11) 見学者として賃貸住宅 (へ・に) 入る時、注意点がいくつかある。
- 12) 引っ越しで賃貸住宅 (へ・に) 入る時、注意点がいくつかある。
- 13) 老後の楽しみとして「日本秘湯 (へ・に) 入る会」に入会した。
- 14) 息子の名前の一部を母方の祖父 (から・に) もらった。
- 15) 妻 (から・に) もらうバレンタインのチョコレートは格別だ。

2. 何かお気づきの点、またはご意見がありましたらご記入ください。

国籍 () 母国語 () 語

出身 () 都・道・府・県

性別 (男・女) 年齢 (10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代・80代以上)

職業 (学生・社会人・その他)

ご協力ありがとうございました。